

野の林檎（りんご）

邪悪な生きものの中で  
自分の犯した罪を  
ひとつでも  
ふたつでも認めるものは  
足枷（あしかせ）をひきずり  
列をなして  
秋の森へと入り  
それぞれのところを選び  
樹に姿を変える

愛と憎しみ  
欲望と裏切りでできた  
ごつごつした塊（かたまり）から根を生やし  
罪人どもは雪の下に凍える  
春が来て  
さしのべた枝に  
この世で一番白く 清い花を  
つけることが許されるまで

二年

あるいは十五年  
それとも四十年後  
すべての罪業が白い花卉に溶（と）けさるとき  
樹々は  
年老いて醜い人の姿をとり戻す

終身刑を受けたものは  
くる年くる年  
くる春もくる春も  
白い花を咲かせ続ける  
酸っぱい実をみのらせ  
罪の種をまきながら